

## 新型コロナウイルス感染症と栄養—子どもたちを守る5つの活動分野

世界的な新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大は、すでにひっ迫した状況にある貧しい国々の保健医療システムや社会経済にさらに深刻な影響を及ぼしています。特に弱い立場に置かれた子どもたちは、さらなる貧困に陥る可能性や、命や生活が奪われる可能性に直面しています。

新型コロナウイルス感染症と診断された子どもは全体の2%未満にも関わらず、今回のパンデミック（世界的大流行）の影響で、**低・中所得国での5歳未満の子どもの死亡率が、最悪の場合45%増加する可能性が指摘されています**<sup>1</sup>。これは病院や保健医療サービスが通常の機能を果たせなくなったり、もともと脆弱であった地域において深刻な食料不足が発生するためです。

未来を担う子どもたちの命を守るため、セーブ・ザ・チルドレンは、日本を含む世界各国において活動を進めています。その中でも、**子どもの命と健康の基盤となる「栄養」**に関して、次のような対策が早急に求められています。



乳幼児期の栄養やカウンセリング、急性栄養不良の対応や治療など、必要不可欠な健康と栄養サービスを継続し、優先する



食の安全と生活を守る



母乳育児と補完食の保護、促進、支援を行う

新型コロナウイルス感染症に対するセーブ・ザ・チルドレンの活動方針「[子どもたちを守る5つの分野の活動](#)」に基づき、セーブ・ザ・チルドレンは栄養への影響や、栄養改善に必要な支援とその重要性について次のようにまとめました。

### 1. 感染の拡大をおさえる—保健医療システムと栄養

- 生まれてから6ヶ月までの完全母乳育児の推奨や、6ヶ月を超えた子どもへの母乳育児の継続と補完食を実施することで、乳幼児の栄養の確保と感染症予防につながります。母乳中の新型コロナウイルスの陽性反応はこれまで確認されておらず、衛生面に配慮しながら世界保健機関（WHO）の「[COVID-10と母乳育児に関するガイドライン](#)」に沿った母乳育児の促進が多くの子どもの命を救います。
- 栄養不良や病気の子どもたちの治療、予防接種などの既存のサービスは、可能な限り継続され、無償で提供されなければなりません。2019年のエボラ出血熱流行の際には、コンゴ民主共和国で麻

<sup>1</sup> John Hopkins (21/04/2020): [Early Estimates of the Indirect Effects of the Coronavirus Pandemic on Maternal and Child Mortality in Low- and Middle-Income Countries](#)

疹（はしか）がまん延し、エボラ出血熱による死亡者の2倍におよぶ約5,000人が亡くなりました<sup>2</sup>。はしかは栄養不良やビタミンA欠乏症によって免疫が低下した子どもが特に感染しやすく、感染者の7割、死者の9割を5歳未満の子どもが占めています。

- 地域の保健医療従事者は、感染症の予防や発見、対応、疎外された脆弱なグループに対する保健・栄養サービスを実施する重要な役割を担っています。保健医療従事者への支援や感染のリスクからの保護が必要です。

## 2. 教育—子どもたちの学びと栄養

何百万人もの子どもたちが、学校閉鎖のために「食料貧困」の危機にさらされています。世界中の多くの子どもたちは、その日の唯一の食事を学校給食に頼っています。新型コロナウイルス感染症による学校閉鎖は、**学校給食に頼っている世界の3億6,850万人の子どもたちが、重要な食事の機会を失う可能性を意味します。**

## 3. 家計支援—生計が苦しい家庭を支援し、子どもたちの生活を守る栄養

新型コロナウイルス感染症の経済的影響により、世界で深刻な食料不足に直面する人々の数は、2019年の1億3,500万人から**2020年末までに2億6,500万人と2倍に増加すると予測されています**<sup>3</sup>。食の安全と生活を守るため、次のような迅速な対応が求められています。

- 家庭や地域がロックダウン（都市封鎖）や外出規制の影響を受けている場合、健康的で栄養価の高い食品へのアクセスを確保することが重要です。
- 収入支援と社会的保護が迅速に行われる必要があります。現金給付は、栄養に関する啓発やメッセージと組み合わせることで効果が向上します。

## 4. 子どもの安全と保護—思春期の健康と栄養

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、健康や性と生殖に関する支援の欠落と貧困状況の悪化の組み合わせによる早期結婚の増加<sup>4</sup>により、**2030年までに1,300万件の児童婚と700万件の意図しない妊娠（その多くは思春期の少女）を引き起こす可能性があります。**思春期の妊娠は、母子ともに栄養面でのリスクを高める結果に繋がります<sup>5</sup>。

---

<sup>2</sup> UNICEF(27/11/2019): [コンゴ民主共和国はしかの猛威、収まらず5歳未満児4,500人が死亡死者はエボラ出血熱の2倍以上](#)

<sup>3</sup> WFP (21/04/2020): [COVID-19 will double number of people facing food crises unless swift action is taken](#)

<sup>4</sup> 結婚時に花嫁代償として花婿側から花嫁側に支払われる金銭や財産を目当てとした児童婚が増えるリスク等が挙げられている

<sup>5</sup> UNFPA (21/04/2020): [Impact of the COVID-19 Pandemic on Family Planning and Ending Gender-based Violence, Female Genital Mutilation and Child Marriage](#)

## 5. 国際的な資金拠出—最も貧しい国々に暮らす子どもたちへの栄養

紛争地など脆弱な地域における栄養改善のために、ドナー国（援助供与国）や各国政府による**長期的かつ柔軟な資金提供**が必要です。

新型コロナウイルス感染症緊急対策として、日本が途上国での予防接種を推進する Gavi ワクチンアライアンスに 3 億米ドル（約 320 億円）の支援を約束したことは評価される一方で、**5 歳未満の子どもの死因の約 5 割を占める栄養不良**に対しては、未だ十分な資金が充てられていません。栄養不良は感染症にかかるリスクを高め、感染症に苦しむ子どもは栄養不良に陥るリスクが高く、また栄養状態が悪ければワクチンの効果が著しく低下する恐れがあります。予防接種プログラムを**栄養支援で補完**することで、効果的な結果を得ることが可能となります。

また新型コロナウイルス感染症の感染者のうち、肥満などの栄養疾患を抱える人ほど重症化するリスクが高い傾向にあることも分かっています。世界に広がる低栄養と過栄養の「**二重負荷**」を改善するための投資が求められています。

日本政府が主催する予定の「[東京栄養サミット](#)」は、①**保健**（ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ）、②**食料システム**、③**脆弱な地域における栄養対策**、④**説明責任**（アカウンタビリティ）、⑤**財源確保**という 5 つのテーマについて、政府や国際機関、企業、市民社会が、世界の栄養改善のためのコミットメントを発表する機会として、準備が進められています。日本政府には、引き続きサミットに向けたリーダーシップと、栄養改善分野における具体的な資金拠出が求められています。

**セーブ・ザ・チルドレンは、日本政府や国際社会に対して次のことを提言します**

- 新型コロナウイルス感染症の対応の一環として、栄養のための資金を動員する。
- [東京栄養サミット](#)において、栄養に関する新規の**かつ長期的なコミットメント**を表明する。

関連：[第 9 回国際母子栄養改善議員連盟報告—東京栄養サミット 2020 に向けた進捗状況](#)

- 栄養不良の更なる悪化を防ぐため、現在および長期的に**栄養危機**が発生する可能性がある地域を特定し、**新型コロナウイルス感染症の対応に栄養支援**を組み込む。
- 関係機関が協力し、**栄養改善への効果を最大化**するため、適切に**支援の実施方法を共有**する。